# 飛騨農林事務所の普及活動状況（令和６年９月 30 日現在）

## 今月の重点活動

### ■新たな担い手　「飛騨の農業を語る会」を開催

【視察の様子】

毎年、飛騨高山高校と飛騨農林事務所は、飛騨地域における農業や農業教育現場の実態などについて意見交換し、連携を密にすることを目的として、「飛騨の農業を語る会」を開催している。

今年は９月27日に開催し、飛騨高山高校及び飛騨農林事務所から約40名が参加し、国産ウイスキー蒸留所と畜産農家を視察した。国産ウイスキー蒸留所では、廃校を活かした蒸留所を見学するとともに、大麦の搾り粕を飼料に有効活用する新たな地域内循環の事例を確認することができた。畜産農家では、大麦の搾り粕の他にも、廃菌床や酒粕、豆腐粕等も利用しており、飼料はその都度設計をしている等の話を聞くことができた。農業高校職員との意見交換では、農業教育現場の現状、抱える問題点等について意見を聞くことができ、農業教育の充実振興を図る必要性を再認識した。

農業普及課では、飛騨地域の農業の発展や地域を守る多様な担い手の育成のため、今後も高校と連携し、次代の農業者育成を進めていく。

## ぎふ農畜水産物のブランド展開

### ■夏秋トマト　出荷折り返しを迎え、中間目揃え会

【トマトキバガについて注意喚起 】

管内の夏秋トマト産地では８月の出荷最盛期を終え、折り返しを迎えている。飛騨蔬菜出荷組合では、後半も高品質な「飛騨トマト」を出荷するため、９月上旬、各地区で中間目揃え会が開催された。

中間目揃え会では、生産者や関係機関が参加し、出荷規格や今後の栽培管理の注意点について確認がされた。また、農業普及課からは、今年新たに管内で被害が確認された外来害虫のトマトキバガについて、被害の特徴や対策に関する情報提供を行った。

今後も、後半の栽培で重要な病害虫や肥培管理などに関する情報提供や提案を行っていくことで、トマトの安定生産を支援していく。

### ■宿儺かぼちゃ　第20回宿儺かぼちゃ品評会

【品評会の審査風景・知事賞入賞品】

宿儺かぼちゃは、通常のかぼちゃと違いヘチマのような長い形状と口当たりの良い食感で飛騨の特徴ある野菜として人気がある。宿儺かぼちゃ研究会では、技術向上を目的とした、宿儺かぼちゃ品評会を毎年開催している。

本年度は、春先の低温や梅雨末期の豪雨、夏場の猛暑にも関わらず、生産者の不断の栽培管理により、各部門において非常に高品質かつ手間の掛かった 43 点の出品物が揃い、行政や市場関係者、JA 職員による厳正な審査が行われた。

どの出品物も品質が良かったが、審査基準に照らし合わせて特に優れていた出品物が、入賞品数として一般部門６名、その他部門２～４名ずつ選出された。

農業普及課では、今後も研究会と連携しながら栽培研修会を開催し、病害がなく完熟した高品質の宿儺かぼちゃの生産、出荷量の確保に努めていく。

## ■りんご　「つがる」目揃え会開催される

【目揃え会の様子】

令和６年産りんごの生育は順調に進んでおり、着果数は多く、肥大も良好である。久々野町果実出荷組合では、早生りんごの出荷を前に「つがる」の目揃え会を、９月７日に開催した。

目揃え会では、果実の熟度や着色について出席者全員で目揃えを行い、出荷基準の確認を行った。さらに、JA全農岐阜及び市場３社の担当者からは、他産地の出荷状況・販売方針等の情勢報告に加え、市場への積極的な出荷について要望が出された。

農業普及課からは、今年の気象推移やりんごの生育状況について情報提供を行うとともに、害虫の発生状況や防除についての説明を行った。

今後も関係機関と連携しながら、栽培技術情報の提供や病害虫発生状況の把握、次年度に向けた病害虫防除暦の作成等を実施し、果樹の安定生産に向けて支援していく。

## ■夏秋なす　秋季研修会開催される

【研修会の様子】

吉城蔬菜出荷組合特産部会なす部会では、今後の栽培管理の確認及び意見交換等を目的として、９月24日に秋季研修会が開催された。

研修会には、生産者10名が出席し、JA担当者からの販売情勢報告に続いて各生産者から栽培上の問題が挙げられ、その対策として摘花や葉かき、農薬の使用方法など、活発な意見交換が行われた。

農業普及課からは、現在ほ場で確認されているオオタバコガ等の病害虫の対策や、これからの栽培管理の注意点について説明した。

今後、農業普及課では、うどん粉病や灰色かび病等の栽培する上で重要な病気の対策について重点的に支援していく。